



お問い合わせ先 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課

〒100-8950 東京都千代田区霞が関 1-2-1

tel 03-3502-5946 (直通)

「ディスカバー農山漁村の宝」ホームページ

[URL] <https://www.discovermuranotakara.com>



事例に関するお問い合わせや本事例集に関する御意見等がございましたら、
上記又はお近くの地方農政局（沖縄県につきましては沖縄総合事務局）まで御連絡ください。

ディスカバー 農山漁村の宝 AWARD

～第10回選定～

DISCOVER MURANO TAKARA AWARD

“これから”を
農山漁村から。



農林水産省

「ディスカバー農山漁村の宝」の概要

趣旨

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

有識者懇談会委員（五十音順、敬称略）



あん・まくどなだ
上智大学大学院教授



今村 司
元日本テレビ
プロデューサー
(株)読売巨人軍
代表取締役社長



織作 峰子
大阪芸術大学教授
写真家



田中 里沙
事業構想大学院大学学長



永島 敏行
俳優
(有)青空市場代表取締役



林 良博
(有識者懇談会座長)
国立科学博物館顧問
東京大学名誉教授



藤井 大介
(株)大田原ツーリズム
代表取締役社長
(株)ファーム・アンド・
ファーム・カンパニー
代表取締役社長



三國 清三
オテル・ドゥ・ミクニ
オーナーシェフ



向笠 千恵子
フードジャーナリスト
食文化研究家
郷土料理研究家



横石 知二
(株)いるどり
代表取締役社長

対象となる取組

- ◆ 美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
- ◆ 幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
- ◆ 国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現

ロゴマーク



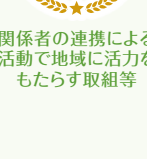
農村をイメージした「稲穂」と漁村をイメージした「海・波」、農山村をイメージした「山」をモチーフにしたデザイン。

【制作者：濱中 幸子 氏（グラフィックデザイナー）】

「ディスカバー農山漁村の宝」 グランプリ、優秀賞、特別賞及び第10回記念賞について

平成26年度からスタートした「ディスカバー農山漁村の宝」は、第10回選定として、令和5年6月16日から約2か月間公募し、合計634件の応募の中から29件（27団体と2名）を選定し、また、第10回となる今年は、過去に選定された優良事例の中から、選定後に著しい発展性がみられ、全国の模範となる事例について、第10回記念賞として1件を決定しました。

また、選定された29件の中からさらにグランプリ、優秀賞（「ビジネス・イノベーション部門」2団体、「コミュニティ・地産地消部門」2団体、「個人部門」1名）及び特別賞（10団体）を決定しました。

 おおだしょうこうかいぎしよ 大田商工会議所 漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。	 島根県 大田市 P.30
 しゃかいふくしほうじん 社会福祉法人 フォーレスト八尾会 かつては町が養蚕業で栄えたことに着目し、桑畑の再生や桑のリブランディングに取り組む。桑茶商品や、剪定枝のバイオプラスチック化、桑の農業体験と料理を楽しむ農泊ツアー、スポーツチームとの連携、学校での養蚕の講師など多様な取組。	 富山県 富山市 P.21
 かぶしがいいしや 株式会社デイリーファーム 地元産米をエサとして使った付加価値の高い卵を生産。消費者の認知向上を目的として、6次産業化施設（洋菓子店・レストラン・ベーカリー）で、卵と地元食材を活用した商品を販売。	 愛知県 常滑市 P.25
 ほっかいどうなかしべつのうぎょうこうとうがっこう 北海道中標津農業高等学校 マネージメント研究班 農業を学ぶ高校生が「町へ恩返しできることはないか」と、地域の幼稚園児から中学生まで全学年に対する食農教育の先生として、地域の特産物の栽培から地域イベントの創造まで幅広く活動。	 北海道 中標津町 P.14
 おおつきちょうびんちょうたんせいさんくみあい 大月町備長炭生産組合 地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。	 高知県 大月町 P.37
 かさが まい 笠木 真衣 平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ひつじの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。	 島根県 大田市 P.31



朝日共販株式会社

フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同したしらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。

愛媛県
伊方町

P.36



トレボー株式会社

日本酒とワインの専門店を営んでいた代表が、平成30年に70歳でワイナリーを創業。インターナショナルワインチャレンジや日本ワインコンクール等で受賞したほか、魅力的な景観との融合を目指した醸造工場は富山県景観広告大賞を受賞。

富山県
南砺市

P.23



認定特定非営利活動法人つどい

地域の高齢者や障がい者などが、耕作放棄地の棚田で花蓮を栽培。蓮の生花の京都市内高級料亭やリゾートホテルへの出荷、ジャムやお茶等の加工品の開発・販売により、年間を通じた作業を実現。

滋賀県
長浜市

P.27



株式会社七転八倒

発信・行動力を持つ学生と共に、諸問題の解決策を考え、田舎の課題を事業化・価値化し有効活用する目的で活動を開始。子育て世代や高齢者も働き続けられる職場を目指し、空き家を活用した古民家カフェを中心に活動。

三重県
伊賀市

P.26



大月町備長炭生産組合

地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。

高知県
大月町

P.37



北海道中標津農業高等学校 マネージメント研究班

農業を学ぶ高校生が「町へ恩返しできることはないか」と、地域の幼稚園児から中学生まで全学年に対する食農教育の先生として、地域の特産物の栽培から地域イベントの創造まで幅広く活動。

北海道
中標津町

P.14



特定非営利活動法人NPO砂浜美術館

4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。

高知県
黒潮町

P.38



株式会社BINGO

有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し、高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命の有効活用に取り組む。

広島県
神石高原町

P.35



合同会社 山内かぶらちゃんの会

100年以上前から栽培されてきた伝統野菜「山内かぶら」を復活させ、女性有志で生産組合を結成して継承。料理店に売り込んだところ、特有の味や煮崩れしにくい特徴が評価されて、県内のレストランや京都の料亭にも出荷。

福井県
若狭町

P.24



農業生産法人 有限会社 伊盛牧場

廃用牛の精肉としての利用や、地元農家と連携し、規格外果樹を活用したジェラートやジャム製造などの6次産業化により、豊富な地域資源を最大限有効活用する取組の他、女性の活躍推進、石垣島の知名度向上への取組も実施。

沖縄県
石垣市

P.40



仙北市農山村体験推進協議会

第3回選定(平成28年度)で特別賞を受賞

第3回選定後、旅行業務取扱管理者資格の取得や地域限定旅行業の登録により、個人ではなく協議会としてワンストップサービスの体制を構築。任意団体から法人化。コロナ禍でも独自の感染症ガイドラインを作成し、万全の態勢で積極的に受け入れ。

秋田県
仙北市

P.42

選定後に取組を発展させている団体・個人

「ビジネス・イノベーション部門」選定団体	「個人部門」選定者
「コミュニティ・地産地消部門」選定団体	「第10回記念賞」受賞団体

受賞体系



グランプリ

第10回記念賞

選定後に取組を発展させている団体・個人

優秀賞	優秀賞	優秀賞
ビジネス・イノベーション部門 所得向上や雇用を生み出す取組等 団体向け	コミュニティ・地産地消部門 地域活動による活性化の取組等 団体向け	個人部門 リーダー的な活躍をしている者等 個人向け
特別賞 特長の際立つ取組の認知度をさらに向上させるため、選定された地区の中から、特別賞を選定		

選定証授与式

第1部の様子

「ディスカバー農山漁村の宝」選定証授与式（第10回選定）を、令和5年12月8日に三田共用会議所（麻布十番）において開催し、特別賞の発表、有識者懇談会委員からの選定証等授与、取組スピーチなどを行いました。



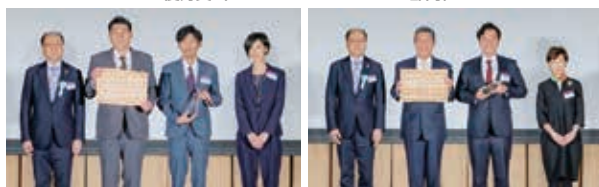
有識者懇談会委員からの選定証等授与

グランプリ



大田商工会議所

優秀賞（ビジネス・イノベーション部門）



社会福祉法人 フォレスト八尾会

株式会社デイリーファーム

優秀賞（コミュニティ・地産地消部門）



高校生の未来づくり賞（林良博委員）

山の神賞（永島敏行委員）

北海道中標津農業高等学校 マネージメント研究班

大月町備長炭生産組合

特別賞の発表・授与

環境保全賞（あん・まくだなご委員）



朝日共販株式会社

あっぱれ!! 情熱賞（今村司委員）



トレボー株式会社

連と里山の景観賞（織作峰子委員）



認定特定非営利活動法人つどい

新価値創出賞（田中里沙委員）



株式会社七転八倒

農泊賞（藤井大介委員）



特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館

ジビエ活用賞（三國清三委員）



株式会社 BINGO

お宝食材リプロダクト賞（向笠千恵子委員）



合同会社 山内かぶらちゃんの会

6次産業化賞（横石知二委員）



農業生産法人 有限会社 伊盛牧場



取組スピーチ

優秀賞（個人部門）



笠木 真衣 氏

第10回記念賞



仙北市農山村体験推進協議会



選定証授与式

第2部の様子



交流会

「ディスカバー農山漁村の宝」第10回選定関係者は、令和5年12月20日に総理大臣官邸において、内閣総理大臣、内閣官房長官、農林水産大臣、地方創生担当大臣、総理補佐官等からの直接の激励を受けるとともに、関係者同士の交流を行いました。



交流会



岸田内閣総理大臣からの祝辞



坂本農林水産大臣からの祝辞



自見地方創生担当大臣からの祝辞



小里総理補佐官からの祝辞



岸田内閣総理大臣と
グランプリ受賞者の記念撮影



政務・有識者懇談会委員との交流



「ディスカバー農山漁村の宝」(第10回選定)

選定地区等一覧

23 広島県 神石高原町 P.35

【特別賞】
株式会社BINGO

24 愛媛県 伊方町 P.36

【特別賞】
朝日共販株式会社

25 高知県 大月町 P.37

【優秀賞 コミュニティ・地産地消部門】
【特別賞】
大月町備炭炭生産組合

26 高知県 黒潮町 P.38

【特別賞】
特定非営利活動法人NPO砂浜美術館

27 福岡県 筑前町 P.39

株式会社 筑前町ファーマーズ
マーケットみなみの里

28 沖縄県 石垣市 P.40

【特別賞】
農業生産法人 有限会社 伊盛牧場

29 沖縄県 宮古島市 P.41

社会福祉法人みやこ福祉会

記念賞 秋田県 仙北市 P.42

【第10回記念賞】
仙北市農山村体験推進協議会

18 島根県 大田市 P.30

【グランプリ】
大田商工会議所

19 島根県 大田市 P.31

【優秀賞 個人部門】
笠木 真衣

20 岡山県 玉野市 P.32

富永 邦彦

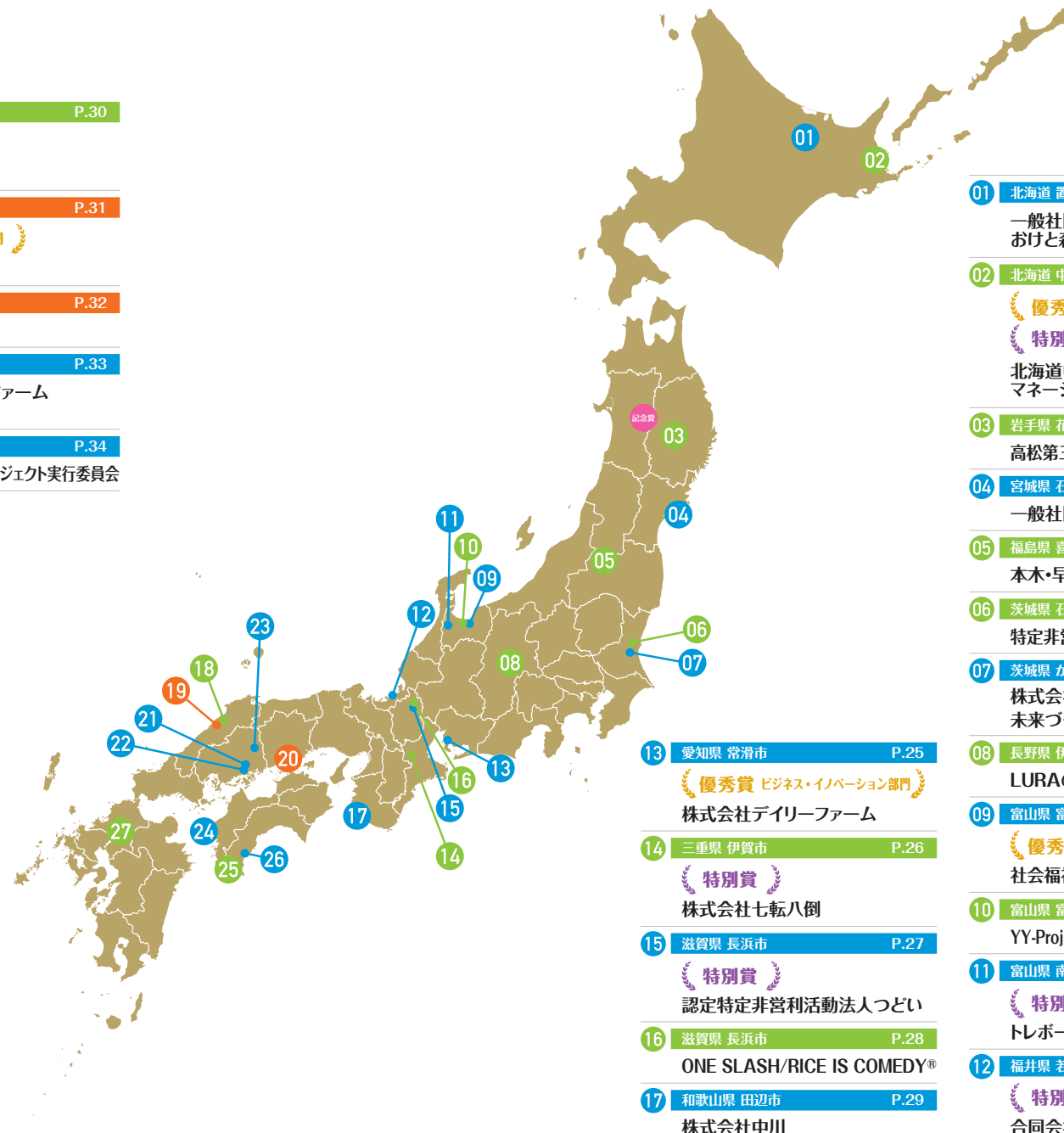
21 広島県 三原市 P.33

株式会社八天堂ファーム
(八天堂ぶどう園)

22 広島県 三原市 P.34

広島みはらプリンプロジェクト実行委員会

「ビジネス・イノベーション部門」選定団体
「コミュニティ・地産地消部門」選定団体
「個人部門」選定者
「第10回記念賞」受賞団体



01 北海道 釧路町 P.13

一般社団法人
おけと森林文化振興協会

02 北海道 中標津町 P.14

【優秀賞 コミュニティ・地産地消部門】
【特別賞】
北海道中標津農業高等学校
マネージメント研究班

03 岩手県 花巻市 P.15

高松第三行政区ふるさと地域協議会

04 宮城県 石巻市 P.16

一般社団法人イシノマキ・ファーム

05 福島県 喜多方市 P.17

本木・早稲谷 堰と里山を守る会

06 茨城県 石岡市 P.18

特定非営利活動法人 アグリやさと

07 茨城県 かすみがうら市 P.19

株式会社かすみがうら
未来づくりカンパニー

08 長野県 伊那市 P.20

LURAの会

09 富山県 富山市 P.21

【優秀賞 ビジネス・イノベーション部門】
社会福祉法人 フォーレスト八尾会

10 富山県 富山市 P.22

YY-Project(四方を良くするプロジェクト)

11 富山県 南砺市 P.23

【特別賞】
トレボー株式会社

12 福井県 若狭町 P.24

【特別賞】
合同会社 山内かぶらちゃんの会

13 愛知県 常滑市 P.25

【優秀賞 ビジネス・イノベーション部門】
株式会社デイリーファーム

14 三重県 伊賀市 P.26

【特別賞】
株式会社七転八倒

15 滋賀県 長浜市 P.27

【特別賞】
認定特定非営利活動法人つどい

16 滋賀県 長浜市 P.28

ONE SLASH/RICE IS COMEDY®

17 和歌山県 田辺市 P.29

株式会社中川

01 北海道に育まれた、うつわ。オケクラフト。

いっばんしゃだんほうじん

一般社団法人

しんりんぶんかしんこうきょうかい

おけと森林文化振興協会



オケクラフト製品の販売（販売施設内観）



町内小学生施設見学



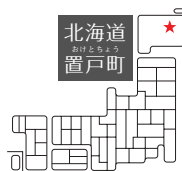
すくすくギフト

ビジネス・イノベーション部門

林業

伝統の継承

関係人口の創出



〒099-1100 北海道常呂郡置戸町
字置戸439-4

オケクラフトセンター森林工芸館
(一般社団法人おけと森林文化振興協会)

tel 0157-52-3170

fax 0157-52-3388

mail info@okecraft.or.jp

02 高校生の力で未来の農村を盛り上げる！

ほっかいどうなかしべつのうぎょうこうとうがっこう

北海道中標津農業高等学校

けんきゅうはん

マネージメント研究班



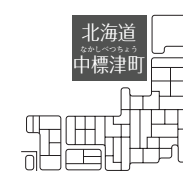
4月はかぼちゃの播種

コミュニティ・地産地消部門

農業

食育・教育

学生・若者の活躍



〒088-2682 北海道標津郡中標津町
計根別南2条西1丁目1番地1

tel 0153-78-2053

fax 0153-78-2465

mail kokoa.0502.dog@gmail.com



馬鈴薯の管理作業



収量調査の様子



- ◆ 豊富な森林資源を町の活性化に活かすため、40年前に木工芸品生産を開始。地域クラフトブランドである「オケクラフト」展示販売施設の管理・運営や販路開拓の他、生産者直販イベント開催等を通じた町内外の人的交流創出、木工産業の振興に寄与。

- ◆ 町内の保育施設から高校まで、学校給食の食器として採用。町内で生まれた赤ちゃんへの食器セット「すくすくギフト」の配布を通じて、地域住民に広く親しまれ、地域文化としても定着。



- ◆ 長期間安定して取組を継続し、売上は、約4,500万円（平成29年7月～平成30年6月）から約6,200万円（令和4年7月～令和5年6月）に増加。
- ◆ 置戸町のふるさと納税返礼品の主要品となっており、町外でのブランド認知度アップや町財政に貢献。



- ◆ 農業を学ぶ高校生が「町へ恩返しできることはないか」と、地域の幼稚園児から中学生まで全学年に対する食農教育の先生として、地域の特産物の栽培から地域イベントの創造まで幅広く活動。
- ◆ 小1・中1は牛の管理、小6は生乳を使ったアイスクリーム製造体験、小2・3・5は馬鈴薯や小麦など町の特産品の栽培、園児・小4はハロウィンかぼちゃ栽培とランタン加工や飾り付けなど、18年で千人以上のこどもたちが参加。



- ◆ 地域の企業や大人も巻き込み、食育学校・地域イベントサポーター数は、4者（令和元年度）から28者（令和4年度）に増加。ランタン作りイベント参加者は、42人（令和元年度）から75人（令和4年度）に増加。
- ◆ 小中学生が食育を体験し、高校生になると先生として活躍するといった人材の循環も誕生し、次の世代への継承が実現。高校卒業後は幼稚園教諭を目指し、新しい土地で食育活動に携わる夢を持った生徒も現れ、他地域への広がりも期待。



詳細は団体のHPから ➡



詳細は団体のHPから ➡

03 農村 RMO で地域が元気になりました！

た か ま つ だ い さ ん ぎ ょ う せ い く

高松第三行政区

ち い き き ょ う ぎ かい

ふるさと地域協議会



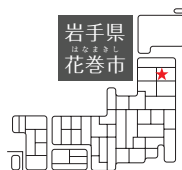
生活支援 外出支援

コミュニティ・地産地消部門

農村 RMO

荒廃農地対策

農福連携



〒025-0014 岩手県花巻市高松 21-60

tel 090-4638-9764

mail takamatsugenki2023@gmail.com



地域資源の活用 福祉農園



地域資源の活用 福祉農園

概要

- ◆ 遊休農地、耕作放棄地を活用した福祉農園で、山の木の実やサツマイモの栽培を1.2haまで拡大したほか、地区の70%を整備して農用地を保全。山の木の実を、交流しながら高齢者、障がい者、園児たちがゼリーに加工・販売。
- ◆ 住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせるための諸課題に対する生活支援（外出支援、配食サービス、除雪支援等）を実施。

成果

- ◆ 福祉農園への来訪者は、約1,700人（平成30年度）から約2,050人（令和4年度）に増加。遊休農地の活用面積は、40a（平成30年度）から80a（令和4年度）の2倍に増加。加工品の売上高は、150万円～160万円と安定して推移。
- ◆ 平成20年の協議会設立以来、10世帯が移住、2世帯がUターン、2世帯が孫ターン。今では、「ありがとう」「ごころうさま」と明るい声が響く。

04 農を通じ多様な人が豊かに暮らすまちづくり

い っ ぱ ん し ゃ だ ん ほう じん

一般社団法人

イシノマキ・ファーム



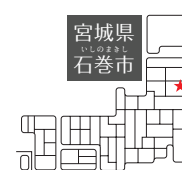
ホップ収穫イベント

ビジネス・イノベーション部門

農福連携

6次産業化

雇用



〒986-0202 宮城県石巻市北上町橋浦字行人前164番地

tel 0225-25-4144

fax 0225-25-6869

mail info@ishinomaki-farm.org



ホップ収穫作業風景



クラフトビール

概要

- ◆ 津波被害等により増えていた休耕地でホップやサツマイモを栽培。農業には人を動かす力があると感じ、心身の不調を抱える人の就労支援の場として活用。シェアハウスを設置し、滞在型農業体験プログラムによる新規就農、定住を支援。
- ◆ 自社栽培ホップを使ったクラフトビールを製造・販売するほか、市内社会福祉法人と連携してホップソルト・干し芋を6次化商品として開発することで、農福連携による就労支援に貢献。

成果

- ◆ ホップ苗株植えのボランティアイベント・収穫体験ツアー・企業研修には、平成29年から延べ1,100人以上が参加し、地域活性化に寄与。
- ◆ 6次化商品の売上は、約300万円（令和2年度）から約2,000万円（令和4年度）に急増。農福連携推進のための作業マニュアルを整備し、雇用を創出。

詳細は団体の HP から



05 浚って応援、食べて応援、飲んで応援

も と き わ せ だ に
本木・早稲谷

せ き さ と や ま ま も か い
堰と里山を守る会



ボランティアによる堰浚いの様子



山都小学校3年生による生き物調べ



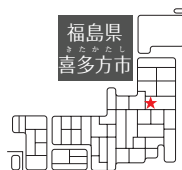
令和3年にオープンした農産物直売所

コミュニティ・地産地消部門

棚田保全

環境保全(農林水産業・食品産業)

関係人口の創出



〒969-4107 福島県喜多方市山都町
相川字道目乙528-1
本木・早稲谷 堰と里山を守る会 事務局/大友治
tel 080-1849-6384
0241-38-2500
fax 0241-38-2500
mail motokiwasedani@live.jp

概要

- ◆ 重労働を伴う山腹水路(本木上堰)の堰浚いを、「都会の人にボランティアで手伝ってもらったら」と募り、棚田が保全されるようになって24年目。小学生との生き物調査や昆虫図鑑作成などの活動により、里山の生物多様性への関心も醸成。
- ◆ 棚田米は「喜堰米」としてブランド化。地元酒造会社が2万円/60kgで買い取り、醸造された「上堰米のお酒」は200円の寄付金付きで販売されて、営農と会の継続を支える。農産物直売所は、非農家の参加も得て、地域活性化にも貢献。

成果

- ◆ 堰浚いボランティアの参加者数は、約40人(平成30年度)から約60人(令和4年度)に増加。ボランティア活動により、都市住民は充実感や達成感を得ることができ、地元住民は堰や棚田・里山の価値を再認識。
- ◆ 棚田米の販売量は、約1,400kg(平成30年度)から約2,100kg(令和4年度)に増加。醸造された日本酒は、年間1,000本程度(平成30年度~令和4年度)の流通を維持。



詳細は団体のHPから

06 田舎で食・農業・工芸・自然などの体験を!

と く て い ひ え い り か つ ど う ほ う じ ん
特定非営利活動法人

アグリやさと



この春2年間の農業研修を終了し独立



19年前に廃校になった小学校跡が活動拠点



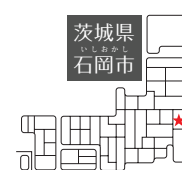
稲や野菜作り体験、野菜の収穫体験を実施

コミュニティ・地産地消部門

農業

農村文化体験

教育機関との連携



〒315-0143 茨城県石岡市柴内
630番地(朝日里山学校内)
tel 0299-51-3117
fax 0299-51-1038
mail satoyama@ishioka-kankou.com

概要

- ◆ 小学校跡の体験型観光施設を拠点に、無農業による稲づくり体験、野菜作り体験といった生産者と消費者の交流活動を支援。都会の中学生らへの農業体験受入等、年間を通したグリーンツーリズムに関する活動等を実施。
- ◆ 有機農業への新規参入者を受け入れ、研修後に地域内で独立する仕組みづくりや空き家調査等、移住を含む新規就農者支援を実施。

成果

- ◆ 農林業体験受入は、33回・約1,800人(平成30年度)から41回・約2,600人(令和4年度)に増加。8割が県外からの体験者であり、交流人口の増加に貢献。
- ◆ 来校者数は約9,000人(令和4年度)、経常収益は約2,300万円(令和4年度)を維持。観光客団地への新規参入者が3人増加。



詳細は団体のHPから

07 霞ヶ浦湖畔の古民家宿を拠点とした農泊体験

かぶしきがいしゃ

株式会社かすみがうら

未来づくりカンパニー

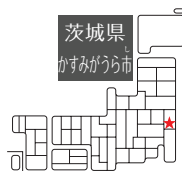


ゲストハウス古民家江口屋の外観

ビジネス・イノベーション部門

農泊

関係人口の創出



〒300-0214 茨城県かすみがうら市坂4784番地

tel 029-840-9010

fax 029-840-9039



朝ごはんは、毎回カマド炊き



蓮根掘り体験



- ◆ 空き家だった築110年の造り酒屋を改装したゲストハウス「古民家江口屋」を宿泊施設として運営。宿泊者には竈門焼きご飯や地元食材料理、地酒を提供するとともに、敷地内で自家製ビールを醸造。
- ◆ 地産地消カフェスペース「かすみキッチン」や果樹園での収穫体験とサイクリングを組み合わせた体験事業等を運営。インバウンドに向けた蓮根掘り体験や霞ヶ浦産天然うなぎの提供など、地域独自の農泊体験プランを実施。



- ◆ 市交流センターを拠点に事業に取組み、利用者数・事業売上は、約3.1万人・約4,000万円（平成30年度）から約3.5万人・約5,140万円（令和4年度）に増加。
- ◆ 古民家江口屋の宿泊人数・売上は、約480人・約540万円（令和2年度）から約1,140人・約1,150万円（令和4年度）に増加。



詳細は団体のHPから ➡

08 消費者も農民になる。

LURA の会



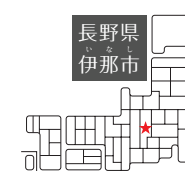
収穫した大豆をはざ掛けして乾燥

コミュニティ・地産地消部門

関係人口の創出

農村文化体験

食育・教育



〒396-0305 長野県伊那市高遠町長藤5479-1
LURAの会 世話人：宇野俊輔・順子

tel 0265-96-2207

090-4713-0984

fax 0265-96-2207

mail kagirohi@ina.janis.or.jp



代掻きを兼ねた泥んこ運動会



ジャガイモの種芋を植付け



- ◆ 世話人（農家）のサポートを受けながら、農作物を協働で育て、面積当たりで収穫した作物を受け取る会員制の農場。会員が作物を育て収穫する喜びだけでなく自然によるリスクも受け持つことで、自然との関わりをより実感できる取組。
- ◆ 週1回の作業日（野菜・米・大豆の生産など）や年4～5回のイベント（田植え、しめ縄づくり、味噌・醤油づくりなど）を開催。



- ◆ 会員数は56家族（令和4年度）で、近年はSNSを通じて移住者からの申込者が増加。
- ◆ 生産効率や輸送費など不利な条件の中山間の小規模（家族）農業でも、会員の申込は面積当たりなので、収量に関わらず、農家としても継続して安定した収入を確保することが可能。



詳細は団体のHPから ➡

09 「八尾の桑」でつながるやさしいまちづくり

しゃかいふくしほうじん

社会福祉法人 フォーレスト八尾会

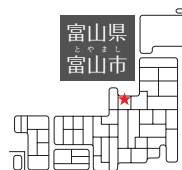


ビジネス・イノベーション部門

農山漁村発イノベーション

伝統の継承

農福連携



〒939-2304 富山県富山市八尾
町黒田53-3

tel 076-454-2117
mail forest@city8.com



ツアーでの収穫体験と桑を使った料理



令和3年より、桑のリブランディング



ハウス栽培のリーフ・フラワー類と料理の一例



◆ かつては町が養蚕業で栄えたことに着目し、桑畑の再生や桑のリブランディングに取り組む。桑茶商品や、剪定枝のバイオプラスチック化、桑の農業体験と料理を楽しむ農泊ツアー、スポーツチームとの連携、学校での養蚕の講師など多様な取組。

◆ 中山間地の耕作放棄地を活用した桑栽培は環境保全・鳥獣害対策となっている。農福連携には平成9年から取り組み、無農薬で生産するハウス栽培のマイクロリーフ・エディブルフラワーはミシュラン店などで使用され、工賃向上につながった。



◆ 桑のリブランディングにより、桑茶葉や桑菓子等の売上は、190万円（令和3年度）から350万円（令和4年度）に急増。マイクロリーフやエディブルフラワーなどの売上は、770万円（令和4年度）とコロナ禍前の水準にほぼ戻った。

◆ 就労支援事業の利用者の平均月額工賃は、14,000円（平成30年度）から17,000円（令和4年度）に増加。令和3年から、SDGsをテーマに、オーガニック・地産地消を推進するマーケットの開催等により地域活性化に寄与。



詳細は団体のHPから

10 四方で良かったと言われたい！！

わいわい ぶろ じえくと

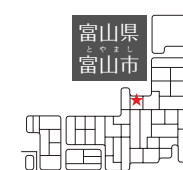
YY-Project (四方を良くするプロジェクト)

コミュニティ・地産地消部門

地域活性化

企業との連携

水産業



〒930-2243 富山県富山市四方
字沼沼1622

YY-Project事務局(有限会社内田鉄工 内)
tel 076-435-2433
fax 076-435-3778
mail yy-project@outlook.jp



富山市公認となったモニュメントの除幕式



イベントを企画開催



黒くずし商品開発・試食の様子



◆ コロナの影響で地域の祭りや学校の行事が中止になったが、地域を巻き込み活動を開始。地域に活力と新しい魅力を創り出すイベントとして、サイクリング×ヨガや卒業式後の打ち上げ花火などを企画・運営。

◆ 地域で伝統的に愛される黒くずし（イカの塩辛にイカ墨を混ぜた料理）と蒲鉾を組み合わせた「黒くずし」を地域の企業に働きかけ約3年間を費やして商品化。SNSでの情報発信等が話題となり、販売開始前からメディアに取り上げられる。



◆ SNSを活用したイベント情報発信により、幅広い年齢層や広域からの参加者を獲得。他地域から多数の問合せを受けるなど、地域活性化に広く貢献。

◆ 富山市の「AMAZING TOYAMAプロジェクト」のスピンオフとして、「AMAZING YOKATA」モニュメントを作成して地域各所や富山市内へ設置し、市公認の企画として地域の魅力発信に貢献。



団体のInstagramはこちらから

トレボー株式会社



ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

農業のスマート化



〒939-1755 富山県南砺市立野原西1197

tel 0763-77-4639

fax 0763-77-3851

mail y.nakayama@tresbeau.co.jp



魅力的な景観との調和を目指した設計



観光客への訴求を目指した内装



無人ローバーやドローンの活用挑戦



◆ 日本酒とワインの専門店を営んでいた代表が、平成30年に70歳でワイナリーを創業。インターナショナルワインチャレンジや日本ワインコンクール等で受賞したほか、魅力的な景観との融合を目指した醸造工場は富山県景観広告大賞を受賞。

◆ ぶどう栽培は14haまで拡大し、農業を引退した高齢者を春から秋まで雇用。通年雇用を図りスキー場とも連携。地元IT企業の協力を得て、農業にITなどの技術で挑戦中。



◆ 耕作放棄地を活用し、作付面積は、3ha（平成30年度）から14ha（令和4年度）に拡大。生産本数は、1.5万本（令和2年度）から4.8万本（令和4年度）に増加。

◆ ぶどう畑や醸造所を積極的に公開し、2年半での見学者は約2,000人、メディア取材は100件超。近隣牧場の希少な短角牛に醸造後のぶどう糟を提供し、「なんと牛赤丸 福光そだち」としてブランド化。



詳細は団体のHPから

ごう どう が い し ゃ
合同会社
や ま う ち

山内かぶらちゃんの会



ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

伝統の継承

女性・高齢者の活躍



〒919-1516 福井県三方上中郡若狭町山内42-2

tel 090-7084-8224

fax 0770-64-1497

mail kyokotobinaga_0804@yahoo.co.jp



会員12名、山内かぶらを持って記念写真



ひげ根、凹凸が多く、見た目は不恰好



地元小学生の収穫風景



◆ 100年以上前から栽培されてきた伝統野菜「山内かぶら」を復活させ、女性有志で生産組合を結成して継承。料理店に売り込んだところ、特有の味や煮崩れにくい特徴が評価されて、県内のレストランや京都の料亭にも出荷。

◆ 大量生産は見込めないが、中山間地の山内集落でしか出せないこの味は地域の宝。甘酢漬け、マスタード、つぼ漬けなど企業や料亭と連携した加工品開発のほか、小学校の授業や栽培体験、飲食店が連携した食育プログラムにも協力。



◆ 耕作面積は、40a（平成30年度）から65a（令和4年度）に増加し、集落の農地や耕作放棄地の有効活用に貢献。出荷量も、480kg（平成30年度）から550kg（令和4年度）に増加。

◆ 集落内のレストラン開業により、販売金額は、約91万円（平成30年度、令和3年度）から約240万円（令和4年度）に急増。



団体のInstagramはこちら

13 たまご農家がお届け!たまごのテーマパーク

株式会社 デイルーファーム

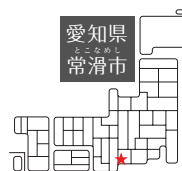


ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消

関係人口の創出



〒479-0806 愛知県常滑市大谷
字荻狭間5番地

tel 0569-37-0072

fax 0569-37-0256

mail a.ichita@dailyfarm.co.jp



6次化施設「ココテラス」の商品一覧



農家レストラン「レシピア」



直売施設にて地元のお店や農家とマルシェを開催



- ◆ 地元産米をエサとして使った付加価値の高い卵を生産。消費者の認知向上を目的として、6次産業化施設（洋菓子店・レストラン・ベーカリー）で、卵と地元食材を活用した商品を販売。
- ◆ 地元農家を巻き込んだマルシェ、常滑観光協会・名鉄観光とコラボした体験ツアーの実施等、地域の魅力を発信する取組や中学生と連携した新商品開発等を実施。



- ◆ 6次産業化施設の売上は、約1.5億円（平成30年度）から約2.9億円（令和4年度）に増加。来客数は、約13万人（平成30年度）から約17万人（令和4年度）に増加し、常滑市の観光客誘致に貢献。
- ◆ 6次産業化施設の開設前（平成26年）と令和4年を比較すると、卵の付加価値額は41.7円/kgから83.7円/kgに増大。スタッフ数は、41人から120人に増加し地域の雇用を創出。



詳細は団体のHPから ➡

14 田舎から INAKA へ。

株式会社七転八倒



コミュニティ・地産地消部門

学生・若者の活躍

関係人口の創出

農泊



〒518-1426 三重県伊賀市川北
604番地

tel 0595-51-7358

mail info@sichiten-battou.com



都会と田舎の交流を生む四季折々のイベント



雇用とコミュニティの核となる「古民家カフェ365nichi」



山を守る地元講師による週末田舎人を育成



- ◆ 発信・行動力を持つ学生と共に、諸問題の解決策を考え、田舎の課題を事業化・価値化し有効活用する目的で活動を開始。子育て世代や高齢者も働き続けられる職場を目指し、空き家を活用した古民家カフェを中心に活動。
- ◆ 伊賀焼の製陶会社と連携し古民家カフェで土鍋の炊飯や蒸し野菜を提供、自家栽培の米・野菜の直売、放置山林整備等に必要の講習の開催など、地域資源を活用した幅広い取組を実施。



- ◆ 古民家カフェは、約540万円（令和4年度）の売上。市内観光施設や伊賀焼産地への訪問者数も増加するなど、関係人口創出に寄与。
- ◆ 宿泊者数は、74人（平成30年度）から174人（令和4年度）に増加。講習受講者数は、12人（令和2年度）から90人（令和4年度）に増加。



詳細は団体のHPから ➡

15 ロータス満開で地域と遊休農地をデザイン！

認定特定非営利 活動法人つどい

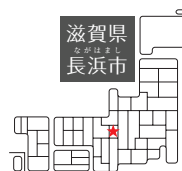


ビジネス・イノベーション部門

農福連携

6次産業化

棚田保全



〒526-0823 滋賀県長浜市常喜町
885番地

認定特定非営利活動法人つどい 事務局

tel 0749-57-6777

fax 0749-57-6786

mail tsudoioi777@tsudoisakura.ne.jp



蓮田の風景



蓮の主力商品、蓮の葉茶と蓮ジャムを販売



蓮の花の収穫 高校生就労体験



- ◆ 地域の高齢者や障がい者などが、耕作放棄地の棚田で花蓮を栽培。蓮の生花の京都市内高級料亭やリゾートホテルへの出荷、ジャムやお茶等の加工品の開発・販売により、年間を通じた作業を実現。
- ◆ 中高生等への体験学習の機会提供の他、地方自治体・自治会・大学・JA・金融機関等との連携強化により活動を拡大。



- ◆ 加工品等の売上は、約700万円（平成30年度）から約2,900万円（令和4年度）に増加。地方自治体や観光協会等と連携したツアーやSNSでの発信により、蓮園への来客数は、約200人（平成30年度）から約8,000人（令和4年度）へ増加。
- ◆ 地域の高齢者を中心に運営する農家カフェを開設し、高齢者の居場所や生きがいづくり、地域活性化に寄与。



詳細は団体のHPから ➡

16 世界農業遺産の里山を米づくりで守る

ONE SLASH/ RICE IS COMEDY®

コミュニティ・地産地消部門

農業

食育・教育

農村環境・景観保全



〒529-0722 滋賀県長浜市西浅井町庄1872

tel 090-1147-6684

mail info@oneslash.jp



農業体験イベントには沢山の人が参加



耕作放棄地復活のため圃場を改善



ゲリラ炊飯で街中でおにぎりを振る舞う様子



- ◆ 農業のイメージをポジティブに変え、地元の里山を保全し、一次産業全体を盛り上げるため、農業体験の開催や、突然街中でおにぎりを振る舞い、お米の美味しさ・米づくりの楽しさを伝える「ゲリラ炊飯」と呼ばれる活動、SNSによる情報発信に取組む兼業農家集団。
- ◆ 耕作放棄地等を中心に作付け、化学肥料を使わず「レンゲ農法」で米づくりを実施。



- ◆ 約500aあった耕作放棄地等が、約200aまで減少。「ゲリラ炊飯」などの活動を通じて、ブランディングとファンの獲得に貢献し、米の販売単価を200円/kgから600円/kgに引き上げ。
- ◆ 田植え体験、稲刈り体験を年間30回開催（令和4年度）し、全国各地から年間約600人参加。地元の魅力、米づくりの楽しさを発信するYouTubeチャンネルへの登録者数を年々増加させ、月間総レビュー数24万回を達成。



詳細は団体のHPから ➡

17 持続可能な林業～木を伐らない林業～

かぶしきがいしゃなかがわ 株式会社中川

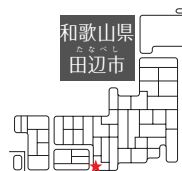


植栽完了現場写真

ビジネス・イノベーション部門

林業

環境保全(農林水産業・食品産業)



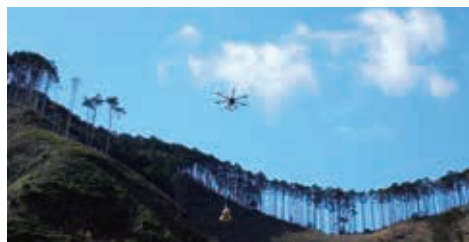
〒646-0023 和歌山県田辺市文里
2丁目32番7号

株式会社中川 総務課 中川雅也

tel 0739-33-9850

fax 0739-33-9851

mail nakagawa.zourin@iaa.itkeeper.ne.jp



ドローン運搬写真



地元中学校での緑育事業風景



- ◆ 造林育林業を柱とし、地域の子供たちや高齢者が拾ったどんぐりを活用して里山再生を行う、持続的な環境配慮型林業を実践。苗木づくりは、障がい者雇用施設等と連携して実施。
- ◆ 地元学校への緑育事業や、市との災害時資材運搬協定締結等の地域貢献活動の他、林業DX（自社開発大型ドローンによる運搬の省力化）や働き方改革により、働きやすい林業を構築。



- ◆ 植栽面積は、66ha（平成30年度）から80ha（令和4年度）に拡大し、売上高は、1.8億円（平成30年度）から2.6億円（令和4年度）に増加。また、従業員数は、15人（平成30年度）から27人（令和4年度）に増加し、移住者も含めた地域の雇用創出に貢献。
- ◆ 社内で育てた研修生や従業員が9都県に7社起業するなど、地域を越えた活性化や林業の発展に寄与。



詳細は団体のHPから

18 隠れた資源を磨き上げ域内消費拡大へGO！

おおだしょうこうかいぎしょ 大田商工会議所

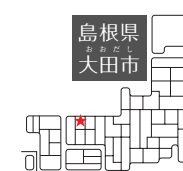


コミュニティ・地産地消部門

水産業

地産地消

企業との連携



〒694-0064 島根県大田市大田
町大田イ309-2

tel 0854-82-0765

fax 0854-82-2993

mail ohdacci@shimanet.jp



行列ができる飲食店で提供されるあなご天丼



あなご料理コンテスト 入賞作品



小学校での出前講座



- ◆ 漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。
- ◆ 大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。



- ◆ 市内のあなごの取扱量は、0.2t（平成30年度）から38t（令和4年度）へ増加。料理提供店舗は、2店舗（平成30年度）から30店舗（令和4年度）に増加。市場での競り値はかつて500円/kgだったが1,300円/kg程度で推移。
- ◆ 食品加工業者に商品開発を依頼し、加工品数は、1種類（平成30年度）から19種類（令和4年度）へ増加。飲食店と加工商品の年間売上は、270万円（平成30年度）から5億円余（令和4年度）に増加。



詳細は団体のHPから

19 うちのひつじは空を飛ぶ! 羊毛製品を世界へ

か さ ぎ ま い
笠木 真衣



ひつじの放牧風景



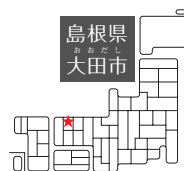
笠木 真衣

個人部門

農業

6次産業化

女性の活躍



〒694-0002 島根県大田市
KASAGI FIBER STUDIO
mail info@k-f-s.jp



ふるさと納税返礼品のウールソックス



- ◆ 平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ひつじの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。
- ◆ 農地（5反）を取得し米を作り、ひつじのフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ひつじ米」として販売。ひつじの放牧による除草や、自治会と共同で毛刈りイベントを開催。



- ◆ 令和5年2月、パリで開催された世界最大のアパレル生地見本市（ブルミエールビジョン）に自家羊毛製品を出展し、世界のファッション界へPR。大田市のふるさと納税返礼品にも登録される。
- ◆ 雑草が餌になるため、近隣住民と連携して中山間地に放牧することで遊休地が活用され、里山の景観維持に貢献。年1回の毛刈りイベントに100人程度が参加する他、遠方から放牧風景の見学者が増加。



詳細は団体のHPから →

20 完全受注漁による持続可能な漁業

と み な が く に ひ こ
富永 邦彦



玉野市の全中学校社会科教諭
邦美丸視察



鮮魚セットを持つ富永夫妻



鮮魚セットを作っている様子

個人部門

水産業

環境保全(農林水産業・食品産業)

教育機関との連携



〒706-0305 岡山県玉野市胸上
1109-5
邦美丸
tel 080-6240-9230
mail kunimimaru_nori@yahoo.co.jp



- ◆ ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを獲る国内初の「完全受注漁」を実施。
- ◆ 水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消への取組。



- ◆ 操業時間・軽油使用料は、12時間・約6,500ℓ（平成30年度）から6時間・約5,400ℓ（令和4年度）に削減。受注漁による売上は、約360万円（平成30年度）から約800万円（令和4年度）に増加。
- ◆ 売上を落とさず削減された労働時間を活用し、地元の漁業協同組合との連携による漁業体験の提供や、市内全中学校の社会科教員の視察受入等、地域の活性化に寄与。



団体のInstagramはこちらから →

21 商工農福連携でサステナブルな未来を描く

かぶしきがいしゃはってんどう

株式会社八天堂ファーム (八天堂ぶどう園)



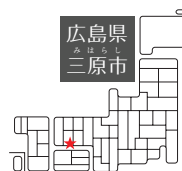
オーナー不在のぶどう園を再生

ビジネス・イノベーション部門

農福連携

6次産業化

雇用



〒723-0051 広島県三原市宮浦
3-31-7

tel 0848-62-2645

fax 0848-62-1255

mail y_hayashi@hattendofarm.
co.jp



収穫したぶどうの加工品



2023 年新ブランド「果実なくりむパン」



- ◆ オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高め、活動をサステナブルとする商工農福連携活動を実施。

- ◆ 収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。



- ◆ ぶどうの収穫量は、約4,000房（令和3年度）から約1万4,000房（令和4年度）に増加。また、売上高は、約400万円（令和3年度）から約800万円（令和4年度）に増加。

- ◆ 高校や法人関係者4者での連携協定を締結し、将来の福祉人材育成に貢献。



詳細は団体の HP から

22 「ゆめ」をつめて「まち」をひとつに

ひろしま

広島みはらプリンプロジェクト 実行委員会



「デザートプリン」「デリカプリン」の商品一覧

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消

企業との連携



〒723-8555 広島県三原市皆実
四丁目8番1号

tel 0848-62-6155

fax 0848-62-5900

mail info.hmp@mhr-cci.or.jp



広島みはらプリンのロゴマーク



年2回発行するガイドブック「おでかけプリン」



- ◆ 地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ（惣菜）」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。

- ◆ 1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。



- ◆ 催事及びJR三原駅構内での売上は、約10万円（令和3年度）から約1,300万円（令和4年度）に急増。参加店舗での店頭販売やECサイトでの販売実績を含めると、2,600万円（令和4年度）の経済消費を創出。

- ◆ 参加店と連携して冷凍プリンの開発や冷蔵での日持ち化を進め、首都圏での長期催事を可能とした他、ふるさと納税の返礼品としても販路拡大。



詳細は団体の HP から

23 地域の猪の有効活用と、地域の課題解決

株式会社 BINGO



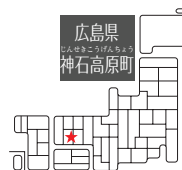
福山施設で焼肉用に処理された猪肉

ビジネス・イノベーション部門

ジビエ

鳥獣被害防止

女性の活躍



〒720-1522 広島県神石郡神石
高原町小島220-1
株式会社BINGO 備後ジビエ製作所
tel 0847-55-4141
mail bingogibier@gmail.com



神石施設でペットフード製造された猪肉



ペットフードプロモーション活動の様子



- ◆ 有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し、高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命の有効活用に取り組む。
- ◆ 個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。



- ◆ 処理頭数は、約220頭（令和元年度）から約790頭（令和4年度）に増加し、地域全体の課題解決に貢献。
- ◆ 売上が、5万円（平成30年度）から約2,300万円（令和4年度）に急増。女性従業員の活躍により、ペットフード数は1商品（令和元年度）から12商品（令和4年度）に増加。



詳細は団体の HP から ➡

24 小さなしらすで地域を守る！

朝日共販株式会社



しらすラーメンと愛媛大学生

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

環境保全(農林水産業・食品産業)

食育・教育



〒796-0611 愛媛県西宇和郡伊
方町川之浜652-1
tel 0894-53-0776



しらす漁



食育活動：地元小学校が製造ラインを学習中



- ◆ フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同したしらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。
- ◆ バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。



- ◆ 売上高は、約11億円（平成17年度）から約82億円（令和4年度）に増加。また、伊方町観光交流拠点施設等の集客数は、約3万人（令和元年度）から約25万人（令和4年度）に増加。
- ◆ 輸出額は、約300万円（令和3年度）から約900万円（令和4年度）に増加。



詳細は団体の HP から ➡

25 資源循環利用による持続的産業を目指して

おおつきちょうびんちょうたん

大月町備長炭 せいさんくみあい 生産組合

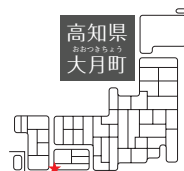


「植樹祭」

コミュニティ・地産地消部門

林業

環境保全(農林水産業・食品産業)



〒788-0302 高知県幡多郡大月町弘見4163
大月町備長炭生産組合 事務局
tel 0880-73-1633
fax 050-8800-0489
mail ootsuki-dentosangyo@orange.
plala.or.jp



「山づくり」択伐



小学校での「製炭学習」



- ◆ 地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。
- ◆ 地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。



- ◆ 資源循環利用のための活動を付加価値として備長炭の価格向上に繋げ、備長炭生産者や原木の伐採を担う森林組合・自伐林家の所得向上に貢献。
- ◆ 資源量を考慮した備長炭生産を行いながらも、平均約5,700万円(平成30年度～令和4年度)の売上を維持。



詳細は団体の HP から

26 アート・スポーツ・防災×農山漁村で活力を

とくていひえいりかつどうほうじん

特定非営利活動法人 えぬびーおーすなはまびじゅつかん NPO 砂浜美術館



Tシャツアート展

ビジネス・イノベーション部門

多様な分野との連携

農泊

関係人口の創出



〒789-1911 高知県幡多郡黒潮町淳灘3573-5
tel 0880-43-4915
fax 0880-43-1527
mail nitari@sunabi.com



ボランティアスタッフと地域住民の交流



海の脅威を学ぶ・防災学習プログラム



- ◆ 4kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。
- ◆ 砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受入。



- ◆ スポーツツーリズムでの宿泊数が、約1.2万泊(平成30年度)から約1.4万泊(令和4年度)に増加、防災学習プログラム体験者数は、4人(平成30年度)から約400人(令和4年度)に増加するなど、関係人口創出に寄与。
- ◆ 大学と連携した黒潮町産業連関表の作成により地域経済の現状を可視化。経済効果が約240万円(平成23年)から約1.3億円(令和4年)に増大するなど、砂浜美術館を核とした新しい経済循環づくりに貢献。



詳細は団体の HP から

27 かまど炊きごはん一筋 15 年

かぶしきがいしゃ

ちくぜんまち

株式会社 筑前町ファーマーズ マーケットみなみの里

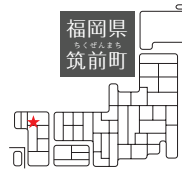


みなみの里全景

コミュニティ・地産地消部門

地産地消

伝統の継承



〒838-0205 福岡県朝倉郡筑前町三並866

tel 0946-42-8115

fax 0946-42-0642

mail mail@chikuzen-minaminosato.jp



かまど炊きの風景



手作り弁当

概要

- ◆ 直売所・町産米や大豆の加工所・農村レストラン・弁当工房を運営。競争を意識して「ここにしかないもの」にこだわり、レストランでのかまど炊きごはんの提供の他、かまど炊きごはんと伝統食が入った弁当の製造販売を実施。
- ◆ 町産のくす米有効活用のため、パン工房にて米粉パンや米粉ピザの製造を実施。米粉パンは町内の幼稚園の給食にも使用。

成果

- ◆ 売上は、約7.2億円（平成30年度）から約8.2億円（令和4年度）に増加。売上の約2割をレストラン、弁当工房とパン工房の売上が占め、町産米の消費拡大に貢献。
- ◆ 地域農家から仕入れる弁当の材料代は、約450万円（平成21年）から約1,100万円（令和4年）に増加し、農家の所得向上に寄与。



詳細は団体の HP から

28 地域と共に 6 次産業化

のうぎょうせいさんほうじん

農業生産法人 伊盛牧場 有限会社

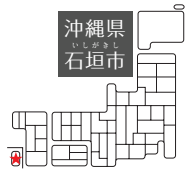


ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消

女性の活躍



〒907-0024 沖縄県石垣市新川1583-65

tel 0980-87-0885

fax 同上



6次産業化によるジェラートやハンバーガー



石垣の景観を活かしたジェラート店



女性従業員の活躍

概要

- ◆ 耕作放棄地も活用して、乳用牛を100%自家生産の牧草で育成。
- ◆ 廃用牛の精肉としての利用や、地元農家と連携し、規格外果樹を活用したジェラートやジャム製造などの6次産業化により、豊富な地域資源を最大限有効活用する取組の他、女性の活躍推進、石垣島の知名度向上への取組も実施。

成果

- ◆ 暑さに強い牛群改良により、平均乳量が1頭あたり2,000kg以上増加。
- ◆ 6次産業化により、店舗売上高が、約1.9億円（平成30年度）から約2.0億円（令和4年度）、来客数は、約20万人（平成30年度）から約29万人（令和4年度）に増加。



詳細は団体の HP から

29 障害者や親が安心して住める地域社会へ

社会福祉法人 みやこ福祉会



ポットファームシステムによるメロン栽培



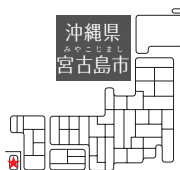
作業効率・安全性を考慮した作業



レストラン太平山店内

コミュニティ・地産地消部門

農福連携



〒906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里3107番地243

tel 0980-73-7770

fax 0980-74-2338

mail miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp

概要

- ◆ 農福連携により、作業の容易性・安全性に配慮した設備を導入した葉菜類の水耕栽培、ポットファームシステムによるメロン栽培を実施。
- ◆ 地産地消に取り組み、収穫物はスーパーやホテル、学校給食等に提供する他、規格外品はグループ内のレストランで活用。

成果

- ◆ 低コスト栽培等の工夫により収益を伸ばし、障がい者の1月あたりの賃金は、約8.7万円（平成30年度）から約9.9万円（令和4年度）に増大。周年で安定的な生産体制の構築により、雇用の安定化を実現。
- ◆ レストラン内にキッズスペースを設置し、地域交流の場を生み出すことで、多様性のある地域づくりに貢献。



詳細は団体のHPから

記念賞

仙北市グリーンツーリズム～農村でみんな笑顔に～

仙北市農山村体験 推進協議会

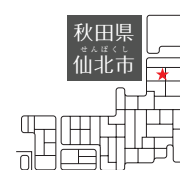
第10回
記念賞

第10回記念賞

農泊

農村文化体験

関係人口の創出



〒014-0368 秋田県仙北市角館町中菅沢81-8

tel 0187-43-2277

fax 0187-55-1515

mail info@semboku-gt.jp



農家民宿でのFIT客滞在の様子



農家民宿等で収穫した農産物の詰め合わせ



学びと暮らしを体感する「家族留学」ツアー

概要

- ◆ 第3回選定後、旅行業務取扱管理者資格の取得や地域限定旅行業の登録により、個人ではなく協議会としてワンストップサービスの体制を構築。任意団体から法人化。コロナ禍でも独自の感染症ガイドラインを作成し、万全の態勢で積極的に受け入れ。
- ◆ 様々な世代が楽しめるスノーシュー体験や電動キックボード等を取り入れて体験コンテンツの充実を図ったほか、「家族留学」を販売し交流人口の増加に取り組む。コロナ収束後の集客に向けて、農産物の物販事業も開始した。

成果

- ◆ 日本語と英語で制作したホームページで体験情報を提供し、リクエスト型で予約手配を実施することで、問い合わせが増加しており、ホームページ訪問者数は、約5,700件（平成30年度）から約40,400件（令和4年度）に増加。
- ◆ キャッシュレス決済の導入、地域の実情に精通するネイティブスピーカーの配置等により、農家民宿等外国人宿泊者数は、801人（平成27年度）から2,554人（令和元年度）に増加。コロナ禍で落ち込んだが、令和5年度は2,050人を見込む。



詳細は団体のHPから